



社員の働き方を尊重し、成長に真剣に向き合ってくれる会社です。

株式会社駒屋 倉田 麻由さん



代表者名：須藤 文雄
住 所：〒130-0005 墨田区東駒形2-5-14
社 員 数：42名(うち女性25名)※平成30年8月末現在
設 立 年：昭和25年4月創業
電 話：03-3625-0876
ホームページ：http://www.komaya-japan.com

株式会社駒屋

1950年創業、財布や名刺入れ、スマホケースなどの小型革製品を手がけるメーカーです。製品の企画・製品開発から生産までを一社で完結できるのが特徴で、生産された製品は、主に百貨店や革の専門店にて販売されています。現在は、IT化による生産効率向上に向けた取り組みや、人財育成への注力による生産者の若返りなどに挑戦を続けています。

——就職のきっかけはなんでしたか？
愛媛から上京して美術系の専門学校で学んでいたのですが、事務職として働ける会社を探していました。当社を知ったのは「東京新卒応援ハローワーク」で担当の方に相談したときでした。学校でも、革を使ったものづくりを勉強したことはなく少し心配していましたが、会社説明会で社内を案内してもらったときに、実際に革小物を仕立てる現場を見せてもらったんです。そこで思い出したのは、実家のことでした。うちは祖父母が服飾関係の仕事をしていて家ではいつもミンが音を立てていたなあと懐かしさを感じました。私自身も、何かづくりだすことが好きだったことも思い出し、当社の面接を受けて2017年4月に入社しました。

がなかったで、一年目は失敗もありました。お客様からのご要望の感覚的な部分を言葉にできず、現場に上手く伝えられないことがありました。わからないことは現場の先輩方に相談し、ひとつずつ学んでいくことでようやく営業としての仕事ができるようになってきました。
今、仕事を進める中で大切にしていることは、商品を受け取ったお客様がどうしたら喜んでくださるかを自分なりに考えることです。ものづくりをする以上、お客様に喜ばれるものでなくてはならないと思っているので、考えをまとめた上で現場に情報を伝えるようにしています。

——今のお仕事について教えてください。

事務職を希望して就職活動をしていたのですが、実は入社以来、営業担当なんです(笑)。営業というと、外回りや飛び込みでお客様と商談をするイメージだったので、当社の営業はお客様から注文をいただき、それを情報整理して現場に伝えるのが主な仕事です。製造が忙しくなると、製造部門のサポートもします。
入社するまで革のものづくりについて知識

——働きやすさはどうですか？
穏やかな社員が多く、わからないことは質問すればなんでも答えてくれます。現場と



距離が近いのでコミュニケーションもとりやすく、仕事しやすいです。若手の採用も進めていて、30歳以下の社員も5名ほどいます。逆に定年後の再雇用制度で働く先輩からも学ばせてもっています。
さらに、ものづくりの会社ではめずらしいと思いますが、育児中の女性と結婚を機に引越して当社に通えなくなった女性の2名がテレワークで働いています。靴や鞆のつくり方を学ぶ学校は結構あるのですが、革小物の製造スキルは学べる場が少なく、技術者は貴重な存在。会社にとっても必要な人材ですし、社員も長年培ってきたスキルを活かした仕事を続けられます。私は、テレワークを選択した社員とのやり取りも担当していて、朝に2人とSkypeで話すのが日課になっています。すでに、多様な働き方ができているので、自分自身のライフスタイルが変わっても働き続ける道を考えられそうなので安心しています。

——この先手がたい仕事はありますか？
今も続けているのですが、駒屋のオリジナル商品をもう少し広く展開したいという思いがあります。お客様から依頼をいただくOEMは当社の基幹業務として大切ですし、お客様の要望にきちんと応えられる会社であることは誇りに感じますが、エンドユーザーの顔は見えないことがほとんどです。実際に商品を手にしてくださるユーザー向けの商品を企画し、お届けできたらうれしいです。

——最後に、会社自慢をお願いします！
駒屋は、社員の成長に真剣に向き合っている会社です。年間100万円の社員成長予算が確保されていて、社員が学びたい分野の書籍購入やセミナー受講に使えます。若手を中心に勉強会を開くこともあります。私を含めた若手5名も、毎月

の成長目標を立てて、週に一度西村さんとミーティングをして進捗を確認しています。今はひとつの業務をさまざまな視点から見られるようになりたいです。淡々と働くのではなく、仕事を通して少しでも成長したいという方にはとてもいい環境が整っていると思います。

Boss's Voice 西村 剛史さん



当社は、1950年から革小物の企画、製造と企業様向けのOEMを行ってきました。事業自体は大きく変わっていませんが、時代の流れとともに、会社が置かれている状況は大きく変化しています。バブル期は、とにかく効率的に大量に生産することが求められてきましたが、今は製品にどれだけ付加価値をつけられるか、お客様のご要望をどれだけ引き出せるかが勝負です。な

ので、指示されて動きだすのではなく、自分で考えて動ける社員になってほしいという思いがあります。倉田さんが話してくれた成長予算ですが、去年は使い切っていません(苦笑)。積極的に利用してもらえるように働きかけ、社員の成長はこれからも支援していきたいです。

当社も規模が大きくないので、倉田さんに任せている業務は多岐にわたりますが、一生懸命立ちまわってくれています。わからないことは素直に聞いてくれるので、伝わっていないかな？という不安がないです。また、当社には、長年職人として活躍してきた社員も多く、正直パソコンに強くない者もいます(笑)。メールでの注文が来たときは倉田さんが先輩に教えてくれている様子も目にしますし、部門間の橋渡しの存在でいてくれてありがたいです。

私自身は、ワークライフバランスではなく「ワークライフインテグレーション(仕事と生活の融合)」を目指したいと思っています。テレワークの導入をはじめとして、これからも社員が生活を大切にしながら働ける環境を整えていきます。

